

新正会員の活躍に期待する

～クラス幹事制度の発足～

菊地 芳朗 (GS34)



今年の冬は例年のない寒波と大雪でした。被害に遭われました皆様には心からお見舞い申し上げます。

長い間お世話になりました創立100周年記念事業は初期の目的を達成し、昨年の11月17日に役員会を行い解散致しました。

会員の皆様には大変お世話になり衷心よりお礼申し上げます。

皆様から賜りましたご芳志は最終的には下記の通りでした。募金者数は4,570名(件)総額2億600万円で、その内訳は

企業	264件	5,973万円
篤志者	22名	153万円
教職員	184名	1,142万円
学部後援会	16回	3,546万円
北光会	4,084名	9,786万円

でした。募金目標3億円に対し約7割の結果となりました。しかし北光会は目標の略1億円を達成することが出来ました。皆様には重ねてお礼申し上げます。詳しいことは「北光」本号に掲載してありますのでご覧ください。

創立100周年記念事業として建設しました鉱山専門学校本館を模した「百周年記念館」は、昨年10月に完成致しました。北光会は11月5日、ここに引越して業務を行っております。

総会時に記念館の見学会を行います。ご覧になりたい方は本号に同封致しましたハガキにて申し込んでください。

さて、新学部の創設のことですが、昨年の総会時の講演で吉村学長より国際資源学部(仮称)の創設に伴い大学の改組の話がありました。また、地元の新報にも報じられました。

その内容は、「北光」第152号で述べたように国際的な資源開発や金属資源リサイクル分野に教育文化学部の国際系課程を集約して国際資源学部(仮称)を新設する。工学資源学部の工学・理学系学科は理工学部(仮称)に改組する、というものです。平成26年4月から新組織となるよう努力しております。

北光会は二つの学部の同窓会として、両学部の発展に協力して行くことにしております。

3月22日に卒業式が行われ、その後新正会員の歓迎会が行われました。今回から北光会旗の入場が始まりました。

ここで「良き先輩となれ」と申しました。これには色々な意味がありますが、ここで述べたことは「皆様が企業に勤めると、企業は皆様の勤務評価を行います。一方、大学にはこれから続く多くの後輩がおります。皆さんの評判が良ければ大学の評価も良くなり、それでは秋田大学からもっと採用しようとなります。勿論この逆もあります。皆さんが就職出来たのは先輩の影響が全くない、とは言えないでしょう。

北光会は、長い歴史の中で先輩は後輩のことを思い、母校の発展を願い、同窓生の絆を強めてきました。

皆様も、これからの社会や職場で後輩と母校を思って頂きたいと思っております。

このように先輩が後輩を思いやるのが同窓会・北光会ではないでしょうか。このことを良く理解して活躍されることを期待しております」と申し上げました。

本年より卒業生との連絡を密にし、会の活性化と会費納入率の向上のためクラス幹事制度を発足致しました。各幹事の皆様には宜しくお願ひ致します。

北光会は「北光会技術相談システム」(仮称)を立ち上げることにしました。これは、会員には様々な分野で活躍している多数の専門家がございます。これらの豊富な経験を北光会の組織を利用して会員の相談に答えていき、会員相互の信頼関係を深めて行くことを目的としております。詳しくは本号の記事をお読みください。

北光会は昭和3年に設立され、本年の6月で85周年となります。総会時の講演会を市民に開放した記念講演会とすべく検討中であります。

北光会は皆様の会費で維持されております。会費納入率の向上にご協力ください。